# 株式会社ジェイコム大田

# 放送番組審議会　議事録

**平成 29 年度（2017 年度）株式会社ジェイコム大田放送番組審議会は、2018 年2月19日(月)ジェイコム大田局にて開催された。**

**【放送番組審議会委員】**

| ご出席 | ご欠席 |
|---|---|
| 千 葉　茂 様 | 政木　純也 様 |
| 平本　隆司 様 | |
| 桑田　健秀 様 | |
| 小山　君子 様 | |
| 松尾　明美 様 | |

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

**【質疑応答・意見交換】進行：千葉会長**

**■ジェイコム大田の現在**

**委員**

「おおた de 歩っと」に出演したところよく声をかけられ、影響力の大きさに驚いた。
平昌五輪でテレビの重要性が再認識されているし、将棋の羽生善治氏や藤井聡太氏などテレビに人を惹きつける棋士も出てきている。今後も視聴者を増やすよう努力を続けてほしい。

**■地域から全国へ**

**委員**

J:COM は"対地域" "地域から全国発信"と、全面体制で情報を発信していて隙がないと感じている。
インターネットで誰もが簡単に発信できる昨今、キー局の扱う規模や案件の大きさと比較しても
ちょうど中間を進んでいる印象。キー局の落ち込みがささやかれている中、企画力を伸ばしているので感心している。最近はキー局でも池の水を全部抜いてみたり、路線バスの旅だったりと、地域の視点が入った企画が人気を集めているので、企画力で勝負を続けていってほしい。

**事業者**

地域に根差した企画といえば、専門チャンネルとのコラボレーションがある。海外ドラマは固定ファンのいる人気コンテンツ。海外の消防士ドラマ放送開始に合わせて、地域の消防士を紹介するという企画が持ち上がった際、すぐ手を挙げた。区民のために働いている方にスポットライトを当てたい、出演される方が誇らしく思ってほしい、という想いだった。我々にとっても進歩であり、我々を活用して頂く幅が増えたと感じる。

**委員**

情報の伝播という点で単独のケーブルテレビ局には限界があったと思う。それが全国へ発信できるようになり、隔世の感がある。スタッフの苦労に敬意を表したい。

マイナースポーツは全国枠で取り上げられるとうれしい。全国には 3,000 の総合型のスポーツクラブがあり、独自のネットワークを持っているので、地域スポーツの情報拠点として連携していけるのではないか。

**■取材の範囲と対象について**

**委員**

生中継は J:COM の強みなので、是非 継続していってほしい。

大田区には 217 町会あり 18 ブロックに分かれている。J:COM に取り上げてもらった町会からは満足の声が聞こえている。各町会では阿波踊りなどいろいろな催しを行っており、小さいところにも良さがある。

そうした小さな町会のイベントも拾って頂けると嬉しく思う。取材を申し込む方法があれば知りたい。

年配の視聴者は特に関心が高く、知り合いが出演するとできると「誰が映っていた」とよく話題にしている。

こうした"口コミ"の力は侮れない。「小さい声が膨らんでいく」ということを是非 念頭に置いてもらいたい。

**事業者**

ネットワークづくりの大切さを実感している。将来的には地域を結ぶハブにならなければいけない。

小さい声から大きい声まで届けられるよう、様々な場所から情報を集めて発信していく。

どんなに良い番組を作っても、見られなければ意味がない。

アナログなビラ配りから、SNS へ出稿するデジタル広告までプロモーションを大事にしている。

ホームページやカスタマーセンターで取材希望をお受けできるので活用してほしい。

**■地域スポーツについて**

**委員**

平昌五輪における日本代表の活躍で、東京五輪に向かって盛り上がっていくだろう。競技スポーツに関心が高まる一方で、強いチームだけが取り上げられてしまう。子供からお年寄りまで楽しめるスポーツは地域コミュニティの核となる良いソフトなので、しっかりと扱ってもらいたい。

区はシティプロモーションや国際会議や展示会、イベント誘致などで各所と連携をしているが、スポーツ業界

は種目別や組織別で分かれてしまい交流がない。それが地域という視点でつながっていく、コミュニティの核に成り得るコンテンツだと再認識した。地域づくりという意味でも、スポーツを軸とした街づくりに力添えしてほしい。

**■「デイリーニュース」について**

**委員**

広報で制作している「シティーニュースおおた」は皆様に協力頂いて地域の情報を発信しているが、
なかなか広報番組だけでは全てをカバーしきれないので、「デイリーニュース」で細かいニュースまで取り上げてもらい感謝している。大田区にはまだまだ"宝"が眠っているので、広いところから小さいところまで、これからも連携しながら区民に大田区を知って頂きたい。J:COM にも全面的に PR してもらえたらと思う。

**事業者**

地域の核である大田区広聴広報課が制作する「シティーニュースおおた」と、我々J:COM が制作する「デイリーニュース」とはすみ分けがあると考えている。
地域の軸となる情報は広報番組で発信しているので、「デイリーニュース」では区民の身近なネタを集めて補完する関係でありたい。地域の話題をスタッフと共有しながらさらに進めていく。
地域の方々を支える情報を隅々まで拾っていきたい。

**■防犯防災について**

**委員**

テレビは見ている方に情報をわかりやすく伝えることができると思う。例えば、振り込め詐欺の電話手口を掘り下げることもできるし、電気ストーブや台所が出火元となる身近な火災の危険性も伝えられる。公的な団体が撮影した映像の貸与も可能なので、是非 情報の発信をお願いしたい。

**■散策番組について**

**委員**

散歩が趣味の 60 代は多いが、比例して散歩番組が増えていると感じる。
「春宵の響」を見て洗足池に、「お会式」を見て池上本門寺に足を運んでみるきっかけになるので、商店街と組み合わせて紹介してみてはどうか。また、夏や冬の季節の厳しい時期は銭湯や博物館・美術館などで楽しく健康づくりができるような番組を見てみたい。

**事業者**

健康増進や生涯スポーツとしてウォーキングが注目を集めているし、いわゆる「街ぶら」という番組ジャンルも人気が高い。J:COM では区長や市長が司会者となって街を歩く番組もあれば、社員アナウンサーが街巡り

をする番組もあるので、前向きに検討したい。

**委員**

大田区らしい、下町感がある「街ぶら」番組だともっと視聴者も楽しんでくれると思う。

**委員**

スポーツ業界は組み合わせを大事にしている。例えば、大田区の散歩コースを歩くことによってインセンティブとして「健康ポイント」が手に入ったり、Wi-Fi を内蔵した自販機をコース上に配置してポイントがたまる仕組みだったり、スポーツコミッションでは日常生活の中に目標を設定して、到達すると何かが還元される制度を検討し始めている。こうした取り組みを商店街や商工会の方々と一緒に行なうことで付加価値が高められると思う。

**■収入について**

**委員**

経営のために営業活動はされているのか？

**事業者**

最近は自治体ビジネスの入札案件に参加している。テレビ番組の制作だけに限らず、スタンプラリーやマルシェなどのイベント運営も受注している。イベント運営だけの会社は多いが、J:COM は映像化や放送まで含めた総合メディアとして注力している。

**■新たな試み**

**事業者**

今年は新しいチャレンジを行ってきたが、その答えとしてたくさんのご意見が返ってきたと感じるし、自信にもなった。各委員からの意見を今後の番組制作にしっかりと反映していきたい。

以上